



20仁産第 133号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

仁淀川町長 藤崎 富士登



今後の道路行政について意見・提案の提出について

平成20年9月19日付（国道企第37号）で依頼のありました標記につきまして、
別紙のとおり提出いたします。

① 道路行政全般について、改善すべき点、要望や提案など

高知県仁淀川町

地方の自主性・裁量性により、地域の活性化に密着した道路整備を行うための、地方道路整備臨時交付金の根拠法ではありますが、道路特定財源等に関する基本方針は閣議決定されたものの、道路財源特例法案は未だに成立していない。このため、地方に交付されるべき交付金あるいは、前年度からの継続事業等にも影響を与え、地方財政・地域経済にとり大きな影響が生じている。

今日、成熟社会となり人口の減少と高齢化、経済の右肩下がりと言った中で、より一層少子高齢化が進むと共に、特に中枢となる生産年齢人口が減っていく大変厳しい時期が到来する。この人口が減少し活力の無くなる時代を考慮すると、これまで以上に効率的に物が運べ、人の移動が可能となり情報が流れる、社会資本の整備は欠かすことの出来ない取り組みである。

政府・国会は地方道路整備臨時交付金制度が、地方にとって特に必要不可欠な財源であることを再認識していただき、整備の遅れておる地方財政を守ると共に、環境保全や食料供給など国の基盤を支得る地方が、今後より持続可能な地域社会を形成するためにも、道路財源問題は我々地方にとって必要不可欠であり極めて重要な問題でもある。この為、下記の点を要望するものである。

- 1 地方道路整備臨時交付金制度を堅持し、地方の道路整備計画に支障を来さぬよう、道路財源特例法案の速やかな成立。
- 2 道路特定財源制度の目的から、逸脱した支出と無駄な支出の根絶を図り、地方道路の財源に充当。
- 3 暫定税率期限切れに伴う減収額の補填。
- 4 都市と地方の地域間格差是正や、地方の地域経済の強化と「安心・安全」な生活を、確保していくための社会資本整備の推進。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

高知県仁淀川町

○地域の実状にあった道路構造

山間部の急峻な地形においては、幅員や勾配などの基準が事業費を増大させている。過疎高齢化により町の中心地や拠点から離れた集落での人口の増加は望めないものの、環境を保全していくための山林等の手入れは重要な施策であり、集落を離れてしまうと今以上の荒廃を招くことは必至である。これらのことにより、交通量の増加が見込めず地形的な制約がある場合に、地域の実状にあった道路構造で事業実施ができるようお願いしたい。

○防災や安全対策等への財源強化

住民の高齢化等にともない、安心安全な生活ができるよう、住民の足としてコミュニティバス（町営バス）等の運行に経費を投入している路線や、避難路としての安全が確保されていない町道等の改良工事を行なう場合の財源措置の強化をお願いしたい。

○合併市町村内の道路整備の推進

合併以前の市町村間を結ぶ、国道や県道などの改良工事を早急に実施し、災害に強い幹線道路の整備を行い、合併市町村の新たなまちづくりが一体感を持って実施できるようお願いしたい。

○ 現 状

高知県は、道路基盤の整備率が低いために、地場産業の開発や地域の活性化と言った、独自の有効活用が出来ていない状況にある。また、地域住民が「安全・安心」して生活をする事の出来る、救急医療サービスや道路防災施設整備等の広域ネットワークづくりなども、まだまだ不十分な状況にある。

特に、仁淀川町においては毎年来る台風時には、国道33号が通行止めとなり孤立化することから、高齢者の多い本町にとっては、緊急時の対応に苦慮しているところである。

この他にも、愛媛県に通じる国道494号・津野町に通ずる439号沿線にも、10数集落が点在しており日常生活には、欠かす事の出来ない路線となっている。しかしながら、車両の行き違いが出来ない未改良部分も多く、通行は基より安全面からも支障をきたしている。

都市と地方地間格差が益々増大していく中で、雇用の場の減少と不便差などから、若者の地元定住はより一層減少していくと共に、高齢化による集落の消滅などから、車で数時間走っても人にも出会わない、無住地帯が出来ていくことは、国土管理上からも大きな問題となっていく。

○ 課 題

- 1 今後、地方が独立し住民が安心して、生活できる社会を実現させると共に、農地や山林を守り綺麗な水と環境維持のためにも、道路基盤の整備は欠かすことの出来ない取り組みである。
- 2 少子高齢化が益々進行していく中で、緊急を必要とする場合など1分1秒を争い、現状のままでは助かるものも助からない。この為、生活・緊急時の折の基本となる「命の道」の整備が急がれる。
- 3 小泉内閣時代の規制緩和・三位一体改革から特に、都市と地方間の格差が広がりつつある中で、今後益々溝が深まる事の無いよう、取り組んでいくべきである。

②-1 地域の現状と抱える課題

高知県仁淀川町

○現状 国道 33 号及び国道 439 号などは、町内外を結ぶ最も重要な路線であるが、降雨により通行規制（250mm 以上通行止め）となる。 住民生活の足として、幹線道路に町営（町民）バスを運行していたが、高齢化（住民基本台帳 H20.3.31 の高齢者比率 47.49%）による住民ニーズの変化により、自分の住む集落から買物や病院への通院の足の確保が望まれるようになった。このため、平成 19 年 8 月より幹線道路から離れた集落の方々の生活の足を目的にコミュニティバスの運行（30 路線）を行っている。 防災対策として、自分たちの地域は自分たちで守る事を目指し、各地区において順次、自主防災組織が設立されており、初期消火や避難訓練など住民が主体となった、防災訓練が行われている。	○課題 通行規制のたびに、旧町村間で交通が分断（国道 33 号が旧吾川村を横断し、そこから国道 439 号などが旧池川町及び旧仁淀村に延びているが、通行規制時には国道間で通行止めとなる。）されるため、住民の間に合併前の地域意識が払拭できず、一体となった町制の推進に支障をきたしている。また、広域行政の推進にも、交通規制等による非常時の対応への不安などにより、支障が生じている。 町民バスやコミュニティバスの運賃収入のみで運行費用を拠出することは不可能なため、多額の補てんを行っている。また、コミュニティバスの路線が、山間部の急峻な地形を通っており、厳重な注意を払いながら運行しているが、落石などにより運休を余儀なくされる場合もある。町道等の改良工事が強く望まれているが、財源等が乏しく難しい状況となっている。 本町の各集落（地域）は、山間部の急峻な地形に散在しており大規模な災害が発生した場合には、まず安全な場所へ非難することが必要となる。しかし、避難のための町道等が危険なため、避難路の安全確保が強く望まれている。
---	--

②—2 地域の目指すべき将来像

高知・松山間を結ぶ一般国道33号地域高規格道路は、高知西バイパスを始め越知道路・橘防災・愛媛県三坂・砥部道路等の整備も進められてはいるが、早急な整備を図ることによって産業・経済・福祉・観光・文化交流面からも、地域住民にとっては欠かすことの出来ない、重要な「命の道」となります。

これらを幹線とし、ここより分岐する国道494・439号並びに、町道等の道路基盤の整備も進められてはいるが、まだまだ整備率は低い状況にあるため、これらを高めていくことが、この山間地域での生活が厳しく人口が減少しても、その力を無駄なく有効に発揮できるだけの、社会資本の整備が県単位で整備されているかどうかで、この地域における産業・経済・福祉・観光・文化交流などの将来像も見えてくる。特に目先の効率や採算性だけでなく、中長期的な視点で地方再生にも取り組んでいくべきである。

町としましても、市町村振興計画に基づいた道路基盤の整備や、農林業の振興・教育・福祉関連等の整備などに取り組んでおりますが、特に今日では、道整備交付金事業を導入いたし、主要な町道の改良を行うことによって、国道までのスムーズな通行並びに、安心と安全な暮らしができる生活環境づくりにも努めている。

②-2 地域を目指すべき将来像

高知県仁淀川町

「自然とともに輝き 豊かで健康な 活力ある未来を 創造するまち」を将来像とし、次の6つ目標を定め取組むこととしています。

①環境にやさしい暮らしづくり

幹線道路から拠点となる集落やそこから点在する集落への道路整備、点在する集落から林地への道路を整備し、町の約 90%を占める森林のうち、管理が不十分となった人工林の除間伐などを進め、町を代表する仁淀川の美しい清流を保全する。

②安心・安全な生活環境づくり

交通手段を持たない高齢者等が、買物や病院などへの移動手段として利用している町営バス（コミュニティバス等）の安全な運行のため、町道等の整備を進める。また、地域コミュニティを核とした自主防災組織の活動に必要な町道等を、避難路としての機能が確保できるよう整備する。

③地域ぐるみの健康づくり

居宅介護サービスの充実を図るため、各集落への町道等の整備を行い時間距離の短縮を行う。また、医療機関への移動や、救急医療充実を図るための道路整備を推進する。

④地域の技と知恵を受け継ぐ教育・文化づくり

児童生徒が快適な環境の中で教育を受けることができるよう町道等を整備し、安全な通学路を確保する。

⑤地域の個性を生かした産業づくり

森林に放置された林地残材や間伐未利用材などを、発電エネルギーや木質ペレットとして流域施設で利用する仕組みづくり（木質バイオマス実験事業）に必要な運搬路の整備を行う。

⑥新たな風を吹き込む出会い楽しむ交流の場づくり

山や清流といった豊かな自然や、その自然を有効利用した農林業、町内の各集落に受け継がれてきた伝統文化、全国に先駆けた高齢化最先端地としての取組事例などの地域資源を、あらゆる世代のフィールドワークの場として有効に活用し、地域間交流人口の増加による活性化のため、点在する地域資源へのアクセス条件改善を図り、一体性・利便性の高い道路網整備を行う。

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

高知県仁淀川町

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
地域活力の向上	○ お茶のブランド化・有機農業への取り組みなどによる農林業の振興 ○ 地域資源を生かした、交流人口の拡大 ○ 森林資源の利活用と雇用の場の拡大	地域高規格道路が早期に完成すれば、高知・松山間を80分間で結び、産業・観光の振興は基より、文化交流面からの効果が期待されると共に、地域産業の振興と活性化が見込まれる。	
安全・安心対策	○ 道路基盤の整備、医療・福祉の充実と防災対策の推進	台風・地震等の災害時並びに、緊急を要する病気や怪我等においても、あわてず対処できると共に、年がいても安心して、余生を送ることが出来る。	
町内交通の利便性	○ コミュニティバスの運行 ○ 生活物資調達のための道路改良	自家用車を持っていない、高齢者の増えた中で山間地の集落から、スムーズに中心地に出られることができ、大変喜ばれている。	
地球温暖化の防止	○ 木質バイオマス実験事業への着手 ○ 森林整備の推進	化石燃料の枯渇や環境問題が叫ばれている中で、CO²削減並びに豊富な資源の有効利用から、欠かすことの出来ない取り組みである。	